

株式会社スノーピークのデザイン経営 ——お客様の声とモノづくりの理念

株式会社スノーピーク 企画開発本部長 CPDO
人事管理本部長 CHO

林 良治
青柳克紀

毎年4月18日は「発明の日」です。本年度から、デザインの力をブランドの構築やイノベーションの創出に活用する「デザイン経営」に取り組まれている企業が表彰されることとなり、その栄えある第1回として、株式会社スノーピークが「知財功労賞 特許庁長官表彰（デザイン経営企業）」に受賞しました。

株式会社スノーピークは、1963年のブランド立ち上げ以来、高品質かつデザイン性の高いキャンプ商品を発表し、日本におけるオートキャンプブームを牽引してきました。企業経営におけるデザインの重要性が謳われ、デザインの意義やデザイナーの役割等が変わりつつある中、本稿では、社長やデザイナー自身がアウトドアユーザーでもあり、デザイナーが商品企画から生産管理まで全てのプロセスに携わることでお客様のニーズに添う商品を開発する株式会社スノーピークの取り組みをご紹介します。（編集委員会）

1. はじめに

スノーピークの歴史は、先代の山井幸雄（以下、幸雄）が、金物産業で有名な新潟県燕三条で「山井幸雄商店」という金物問屋を1958年に創業したことから始まります。幸雄は登山を趣味にしていたが、当時の山道具は彼が求めるものとは程遠いものであったため、金属加工技術を誇る燕三条の職人に依頼し、自分が求める登山用品や釣り道具を作り始めたのが、当社の原点になります。

1986年に現社長の山井太（以下、太）が当時勤めていた商社を退職して父の会社に入り、スノーピークというブランドを社名に冠し、自身が大好きだったオートキャンプの事業を立ち上げました。

その頃は日本が経済的に成功していた時代ですが、他方で都会の生活の中で、日本の生活はまだ本当の意味で豊かではないのではないかと感じて

